



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.18
六甲全山縦走大会の
生いたちと歴史/中島 龍
2004年9月発行



第18回テーマ： 六甲全山縦走大会の 生いたちと歴史

講演内容

縦走大会が生まれるまで
縦走大会の移り変わり
縦走大会に関わるボランティア

実施日：平成16年9月18日(土)
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：中島 龍さん

プロフィール

1936年芦屋市在住
サラリーマン歴45年(公
務員41年、民間4年)
現在、六甲全山縦走市民の
会会長、兵庫県山岳連盟会
長として活躍。

30年の積み重ね

台風が近づいては通り過ぎてと繰り返す、少し不安定な天候の中、18回目の市民セミナーを行いました。今回は神戸のスポーツ文化として有名な、六甲全山縦走市民の会の「六甲全山縦走大会」について、主宰者である中島さんにお話しいただきました。昭和50年より開催され、今年は大会30周年で大きな節目の年にあたります。蓄積した歴史背景や現在の運営の話を知って、参加者は全縦への関心を大いに高めました。

神戸から全国に発信しているスポーツ文化

「六甲全山縦走大会」は、六甲山系西の須磨浦公園から東の宝塚までの56キロを、1日で歩くハードな行事です。毎年11月に2回開催され、第29回までの参加者は約10万人で、ほぼ85%の人が完走しています。最近では約6割が神戸市外や全国各地からの参加者となっています。大都市神戸の背山で、登山道からすぐに市街地に出られるという、類のない環境が活かされています。参加者だけでなく主催者やボランティアの力で大会を支えられています。神戸が全国に誇れる代表的なスポーツ文化であると確信しました。



歴史背景について耳を傾ける

完走は次の人生への起爆剤

中島さんは、完走認定証を最後の一人まで手渡すことを喜びにされています。「完走者は皆、不思議と心優しい人になります。気力体力を確かめ、奮い立つ自信をうかがえます。」と中島さんは確信を持って締めくくられました。

縦走大会は自分を鍛える大きなきっかけとして前向きな生き方に勇気づけていることを知り、まさに全縦は生涯学習なのだ実感しました。

詳しくは1～2ページをお読みください。
会員の尾崎さんにレポートをしていただきました。

参加の感想 渡辺 洋さん

以前から六甲全山縦走大会に興味がありましたが、なかなか完走に自信がなく参加出来なかったのです。

縦走大会が生まれてからの歴史や、縦走大会のボランティアの皆様の苦労話を興味深く聞かせていただきました。これからの課題として、山でのマナーをどうすればよいのかについて考えさせられる話でした。

完走された方の気力、体力が次の活動への出発点となることでした。中島先生から、予行演習として、全縦走行程を分けて歩いてみたらどうかとのアドバイスをいただきました。次回はぜひとも参加したいと考えております。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金